

会長就任挨拶

小児科医の総力を子どもの幸せのために

会長 師 研 也



この度、日本小児科医会の会長に就任いたしました。初代会長内藤壽七郎先生、二代会長天野暉先生のご功績に深甚の敬意と感謝を申し上げます。

本会は昭和59年以来、着実な歩みを続け平成12年12月、念願の社団法人の許可を厚生労働大臣より受けました。平成13年2月4日帝国ホテルで開催した設立記念式典には全国から多数の会員が集い暗れ暗れしくお祝いをして、会への前途に大きな期待を寄せ合いました。今会長就任に当り、この感激を新たにすると共に改めて責任の重大さを痛感しております。全国会員の先生方の力を結集し、ご尽力いただくことにより本会の発展を続け、我々の力で日本の子どもらの健康で幸せな生活を守ってゆきたいものと思っています。

ご存知の様に本会の発足は昭和55年に日本小児科学会社保委員会が小児医療改善の重要課題として「全国小児科医会の結成」を提案したことに端を発しています。従って当会の初期の活動目標は社会保険診療報酬における小児医療への適正配分と評価に示ばられていました。近年少子化対策の進展につれ小児医療への社会的理解が深まり診療報酬についても改善が認められる様ですが、健保法等の改正や診療報酬の改定が進みつつある現在、本会としても小児医療の充実のため、行政当局に又社会に向けても具体的な提案を続け病院小児科、小児科診療所の経営の安定、施設の充実を図って参らなければならないと考えております。一方創設以来16年余に及ぶ

本会の社会的活動が評価され、子どもの将来を託す公益法人として法的に認可された今日、今年度事業でもある小児健全育成のための環境整備等を通じて小児の保健、医療、福祉の充実向上を図ることは当然であります。これらの活動は従来日本医師会を中核に全国医師会が歩んできた地域保健医療活動そのものであり、これからも日本医師会をはじめ、小児医療関連団体との密接な関係を保ちながら、小児の健全育成を目標に少子化対策、小児救急医療対策など、医療界全体の問題として取り組むことが必要と思います。又すばらしい進歩をとげている小児医学を社会的適応に結びつけ実践してゆくことが我が医会の最大の使命と考えますが、そのためには特に三者協（日本小児科学会、日本小児保健協会、と当会）での協力関係を強め小児医学を基盤とした小児保健、医療の実践が第一と思います。

昨年末、会長を引き継ぐに当り天野先生と会の事業、運営について数回にわたり意見の交換をいたしました。要点は二つでした。一つはインターネット等の情報通信網を利用しての会の運営について、もう一つは優秀な人材を全国に求め是非執行部に入ってもらっていただくことの二点でした。結果的には尚東京及びこの周辺の先生方に負担をおかけすることになりましたが、主旨は生かされ、今回の執行部の誕生になったものと思っています。これに伴い事務局体制の整備、理事会の運営法など近々に手がけなければならない仕事も沢山ありますが、全て発展のための一里塚の覚悟で歩んで参りますので、全国会員の皆様のご理解と全面的な協力をお願いし、歴史ある日本小児科医会の実績を重ねて参りたいと思います。